

## 株主優待制度のご案内

基準日:毎年3月31日

株主の皆さまへの感謝とより多くの方々に当社株式を中長期的に保有していただくことを目的に、株主優待を以下の通り実施しています。

### 2019年3月期株主優待制度の内容

#### ① カタログギフト

1,000株以上保有の株主さまには、地域の名産品等を掲載したカタログから、保有株式数に応じてお好みの商品をお選びいただくカタログギフトを進呈します。

| 保有株式数             | 優待商品             |
|-------------------|------------------|
| 1,000株以上3,000株未満  | 2,000円相当の名産品等を一点 |
| 3,000株以上5,000株未満  | 2,000円相当の名産品等を二点 |
| 5,000株以上10,000株未満 | 5,000円相当の名産品等を一点 |
| 10,000株以上         | 5,000円相当の名産品等を二点 |



#### ② クオカード(3年以上継続保有の株主さま対象)

100株以上1,000株未満保有の株主さまには、一律、500円相当のクオカードを進呈します。

※「3年以上継続保有」とは、権利が確定する3月末日現在の株主名簿を含む過去の3月末日および9月末日現在の株主名簿へ同一株主番号で7回以上連続して記載されることとします。



東海東京フィナンシャル・ホールディングス株式会社

〒103-0027 東京都中央区日本橋三丁目6番2号

新住所(2019年1月1日以降)

〒103-6130 東京都中央区日本橋二丁目5番1号 日本橋高島屋三井ビルディング

TEL:03-3517-8616 受付[土日祝除]9:00~17:00

<http://www.tokaitokyo-fh.jp/>



# 107th Interim Business Report

皆さまと東海東京フィナンシャル・ホールディングスを結ぶ情報ホットライン

第107期中間株主通信

2018年4月1日～2018年9月30日



東海東京フィナンシャル・ホールディングス

## 経営計画「New Age's, Flag Bearer 5 ～新時代の旗手～」のもと 証券・金融の「第3極」を形成する企業グループの創造をめざしてまいります。

株主の皆さまには日頃から温かいご支援をいただき、厚く御礼申し上げます。

2019年3月期上半期の経営環境は、国際情勢の不透明感による株価の変動や投資家心理の冷え込みなどを背景に、やや厳しい状況で推移いたしました。こうしたなか、当社グループはマーケット部門のさらなる強化に取り組むとともに、「Orque d'or (オルクドール)」を中心とする富裕層向けビジネスの進展や次世代層のためのデジタル化戦略に力を注ぎました。当社グループの顧客セグメント別戦略は、他社と差別化された独自のビジネスモデルとして着実に進んでいます。

グレート・プラットフォームの構築に向けた取り組みも一段と加速しました。本年3月には岐阜市に本店を置く十六銀行と包括的業務提携を締結し、2019年中に提携合併証券を設立すべく準備を進めています。

当社グループは現在、2022年3月期を最終年度とする経営計画「New Age's, Flag Bearer 5 ～新時代の旗手～」を鋭意推進しております。地方銀行との積極的なアライアンスやリテール顧客セグメント別戦略に加え、人と組織の効率性向上をめざす人事改革や生産性革命などの諸施策を実行することにより、大手証券や銀行系証券に拮抗する「第3極」を形成し、証券・金融ビジネスの未来を拓く「新時代の旗手」をめざしてまいります。

株主の皆さまには引き続き一層のご支援を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

代表取締役社長 最高経営責任者

石田 建昭

**q** 2019年3月期上半期の取り組みと  
成果をご説明ください

**a** 将来の持続的成長へ向けて  
経営体制と事業基盤の強化を進めました

2019年3月期上半期は十六銀行との包括的業務提携などグレート・プラットフォームの構築を着実に進める一方、「オルクドール」や「MONEQUE (マニーク)」を中心に、顧客セグメントの特性に応じた戦略的なマーケティング活動を推進しました。また、次世代を見すえたデジタル化戦略に取り組み、本年4月にはおつり投資アプリを手掛けるトラノテック社、6月にはロボアドバイザーを提供するお金のデザイン社と、2社のフィンテック企業と資本業務提携を結びました。さらに、社内業務のペーパーレス化など生産性向上と、人事体系の抜本的な見直しなど、経営体制と事業基盤のさらなる強化に取り組みました。

また、今後一層の発展が見込まれるマーケット部門の人員拡充と体制強化、システム高度化などビジネスインフラの増強に努めました。東海東京証券ヨーロッパ(ロンドン)とは、

24時間稼働のディーリング体制構築に取り組んでいます。将来の持続的成長へ向けて、さまざまな布石を打つことに成功した成果の多い半期であったと受けとめています。

**q** 地方銀行とのアライアンスや  
M&Aはどの程度、進展していますか

**a** 中部地区に強固な地盤を持つ十六銀行と  
提携合併証券の設立で合意しました

当社グループは、社内に蓄積した総合的な高機能プラットフォームや独創的なビジネスモデルを、提携する地方銀行や証券会社、買収先・出資先に展開するグレート・プラットフォームの構築を進めています。この取り組みの一環として、昨年度、岐阜市に本拠を置く十六銀行と包括的業務提携を締結し、2019年中に当社としては7社目となる提携合併証券を設立することで準備を進めています。マーケット部門や事業承継など総合的コンサルティングサービスも視野に入れ、地銀連携をより発展させたモデルケースとして育てていきたいと考えています。

### 連結業績ハイライト 2019年3月期(第2四半期累計期間)

| 営業収益         | 経常利益         | 親会社株主に帰属する<br>四半期純利益 | 中間配当金   |
|--------------|--------------|----------------------|---------|
| 35,842 百万円   | 3,985 百万円    | 3,060 百万円            | 12.00 円 |
| 前年同期比 10.0%減 | 前年同期比 51.7%減 | 前年同期比 82.0%減         |         |

# To Our Shareholders

株主の皆さまへ

2018年3月期の連結経常利益に対し、提携合併証券会社6社の取引による収益および持分法投資利益は37.8%を占めています。十六銀行との提携により、提携合併証券は質・量ともに一段と成長するものと予測しています。

**q** 経営計画がスタートして1年半が経過しました。進捗状況はいかがですか

**a** 「経営基盤の強化」「戦略テーマの追求」はいずれも予定通りに進捗しています

経営計画「New Age's, Flag Bearer 5 ～新時代の旗手～」では、顧客セグメント別戦略の追求や、マーケット部門との法人トライラテラルの業務拡大、グレート・プラットフォームの展開を通じて経営基盤の強化を図るとともに、同業他社M&Aなどの戦略テーマを追求していくことを基本方針として掲げています。

計画始動から1年半、富裕層、成熟層、資産形成層のそれぞ

れのお客さまニーズに対応したマーケティング活動を進捗させ、フィンテック企業への投資や生産性革命など将来を見すえた取り組みも一段と本格化しています。次世代向けのフィンテックの活用には当初計画よりも積極的に取り組んでいます。

今後はフィデューシャリー・デューティー（お客さま本位の業務運営）意識を一層高め、デジタル時代に即応したマーケティング手法の確立に注力し、計画目標の早期達成をめざす考えです。

**q** 2019年3月期下半期の市場環境認識と通期の業績見通しをご教示ください

**a** 堅調な事業環境を追い風に上半期を上回る業績をめざしています

下半期の経営環境は比較的堅調に推移するものと見ています。米国では本年11月に中間選挙が実施されますが、中

間選挙の年は例外なくダウ平均株価が上昇しています。また日本でも円安基調の定着を主要因に企業業績が良好で、市場環境は、不透明感が強かった上半期より良い環境が見込まれます。こうした好転が、当社グループの連結業績にプラスに働くと想定しています。地方銀行との連携深化やマーケット部門の強化など、当社グループが継続的に取り組んできた経営戦略・施策が通期は好業績として結実するものと期待しています。

**q** 東海東京フィナンシャル・グループの競争優位性をどのようにお考えですか

**a** 広範なグループネットワークが競争優位の源泉です

金融業界はいま、金利環境の変化や顧客ニーズの多様化、デジタル化の進行などを背景に、旧来のビジネスモデルが通用しない新たな局面を迎えています。銀行や証券会社が単独でビジネスを完遂することは容易ではありません。その点、当社グループは、地方銀行との連携を含め、広範かつ強固なグループネットワークを確立しています。そこが他社との違いであり最大の強みだと感じています。当社グループが先行して取り組んでいるセグメント別の営業手法や総合的な金融機能などを提供することで、グループネットワークのさらなる強化が期待できます。また当社のマーケット部門は、その注力分野において大手証券や銀行系証券と競っていけるレベルまで成長し、当社グループの競争優位性に寄与しています。

引き続き、地方銀行や出資先企業との緊密な協調を通じて、新たな顧客層の開拓や地方マーケットの深耕に取り組む次代の金融ビジネスを模索していきたいと考えています。

**q** 最後に、株主の皆さまにメッセージをお願いします

**a** 来年1月の本店移転を契機として経営計画を一段と加速してまいります

来年1月、東海東京フィナンシャル・ホールディングスは本店を日本橋二丁目の日本橋高島屋三井ビルディングに移転いたします。経営計画「New Age's, Flag Bearer 5 ～新時代の旗手～」で掲げた大都市圏戦略やグレート・プラットフォーム戦略を積極的に展開するため、本店機能のさらなる充実が必要と考え、移転を決定いたしました。

本店移転を契機として経営計画の取り組みを加速し、証券・金融ビジネスの未来を拓く、独自性ある企業グループの創造に取り組んでいく決意です。また、適時的確な将来投資を通じて持続的な成長を実現し、株主価値の最大化を図ってまいります。株主の皆さまには、より一層のご支援を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。





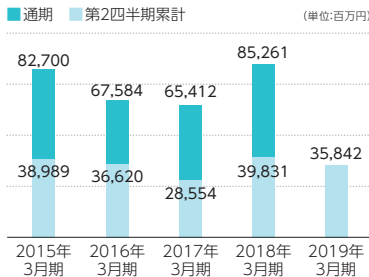
Financial Highlights

財務ハイライト(連結)

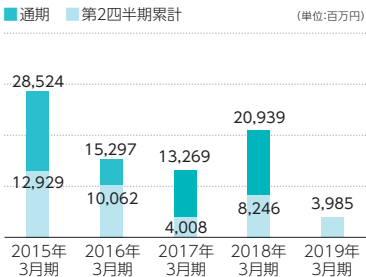
収益・利益のポイント

- 営業収益は、前年同期比10.0%減。親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期に統合に係る連結会計上の一過性損益である負ののれん発生益111億60百万円などの特別利益が計上されていたことも影響し、前年同期比82.0%減となりました。
- 営業収益のうち受入手数料は、個人投資家の売買の減少などが影響し前年同期比10.0%減。トレーディング損益は前年同期比14.5%減となりました。

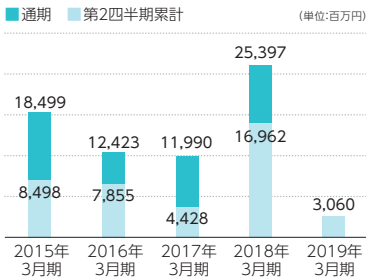
営業収益



経常利益

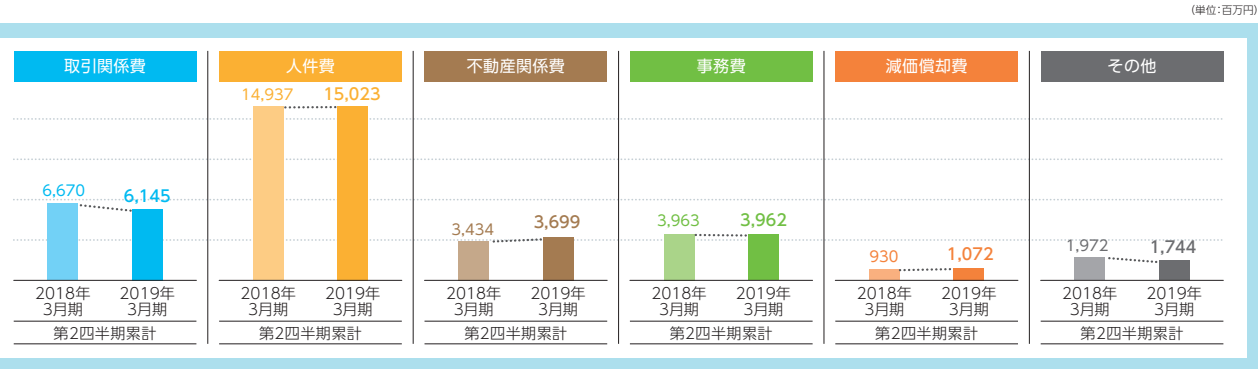


親会社株主に帰属する当期純利益



費用のポイント

- 広告宣伝費の減少などによる取引関係費の減少などにより、販売費及び一般管理費は0.8%減少し、316億48百万円となりました。
- 販売費及び一般管理費のうち人件費は0.6%増加し150億23百万円、不動産関係費は7.7%増加し36億99百万円となりました。



Shareholder Return

データで見る東海東京フィナンシャル・ホールディングス

指標(連結)

|                 | 2015年3月期<br>(中間期) | 2015年3月期<br>(年間) | 2016年3月期<br>(中間期) | 2016年3月期<br>(年間) | 2017年3月期<br>(中間期) | 2017年3月期<br>(年間) | 2018年3月期<br>(中間期) | 2018年3月期<br>(年間) | 2019年3月期<br>(中間期) |
|-----------------|-------------------|------------------|-------------------|------------------|-------------------|------------------|-------------------|------------------|-------------------|
| 1 1株当たり当期純利益(円) | 31.9              | 69.5             | 29.5              | 46.9             | 16.8              | 45.7             | 64.8              | 97.2             | 11.8              |
| 1株当たり配当金(円)     | 14.0              | 34.0             | 14.0              | 28.0             | 12.0              | 26.0             | 14.0              | 38.0             | 12.0              |
| 2 配当性向(%)       | 43.8              | 48.9             | 47.4              | 59.7             | 71.2              | 56.9             | 63.2*1            | 69.7*1           | 101.3             |
| 3 配当利回り(%)*2    | 3.7               | 3.7              | 4.0               | 4.5              | 4.9               | 4.5              | 4.2               | 5.2              | 3.7               |

\*1 統合に係る連結会計上の一過性損益である「負ののれん発生益」を除いて算出 \*2 配当利回りは各期末の株価に基づき算出、また中間期については年率換算値

配当金

当中間期の配当金は1株当たり12円とさせていただきました。その結果、配当性向は101.3%となりました。これからも、内部留保の充実に努めるとともに、安定的かつ適切な配当を実施することを基本としてまいります。

1 1株当たり当期純利益とは？

1株当たりの利益。1株当たり最終的にいくら利益があったかを表します。

1株当たり当期純利益 (単位:円)  
11.8円 | 前年同期比 △81.7%

2 配当性向とは？

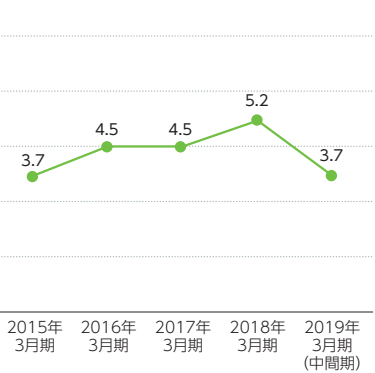
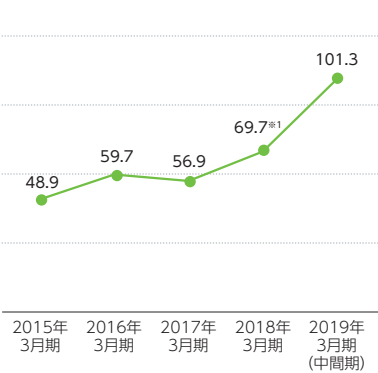
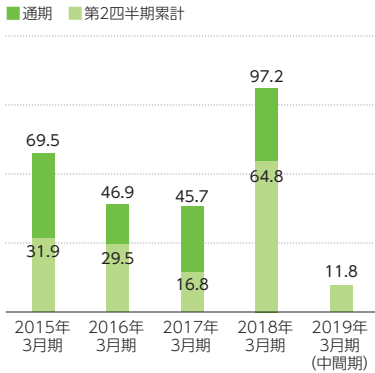
企業の利益(親会社株主に帰属する当期純利益)に対する配当金総額の占める割合のこと。

配当性向 (単位:%)  
101.3% | 前年同期比 +38.1pt

3 配当利回りとは？

株価に対する年間配当金の割合のこと。

配当利回り\*2 (単位:%)  
3.7% | 前年同期比 △0.5pt



\*1 統合に係る連結会計上の一過性損益である「負ののれん発生益」を除いて算出 \*2 各期末の株価に基づき算出、また中間期については年率換算値

## 事業活動

## お金のデザイン社とトラノテック社に出資

当社グループはお客さまの多様化・複雑化するニーズに的確に対応するため、秀でた技術やサービスを有するフィンテック企業との協業を進めております。本年4月には「おつり投資」アプリ「トラノコ」を提供するTORANOTEC株式会社と資本業務提携を結んだほか、6月にはロボアドバイザー「THEO（テオ）」を展開する株式会社お金のデザインの株式を取得し、持分法適用関連会社といたしました。この提携関係を活かし、資産形成層向けサービスの拡充を図っていく方針です。

THEO

## お金のデザインのロボアドバイザー「THEO」

「THEO」とは、お客さまの年齢などに応じて、世界中の約6,000銘柄のETFから、ロボアドバイザーが最適なポートフォリオを提案、自動で運用するスマホアプリです。スマホだけで手続きが完了し、運用報酬も1%（年率）と低コストで始めることができます。



## トラノテック社のおつり投資アプリ「トラノコ」

「トラノコ」とは、あらかじめ設定した金額から、実際に買い物をした金額を差し引いた差額を「おつり」とみなし、投資信託へ毎月投資を行うスマホアプリです。



## 事業活動

## CSR活動

## 東海東京証券が環境省のグリーンボンド発行支援者として登録

当社グループの中核企業である東海東京証券は、本年8月、環境省が主導する「グリーンボンド発行促進プラットフォーム」において、グリーンボンド発行支援者として登録されました。企業や自治体は、登録発行支援者を活用することにより、通常の債券発行に比べ追加的に発生するグリーンボンドの外部コストを抑制することができます。グリーンボンドの引受・販売を通じて本市場の拡大に貢献するとともに、事業活動を通じて環境、社会へ貢献してまいります。

## グリーンボンドとは

環境問題の解決に貢献する事業に使途を限定した債券で、近年、世界的な環境意識の高まりを背景に発行額が急増しています。



GreenBond  
Platform  
登録発行支援者

## 広報活動

## プロサッカー選手、吉田麻也氏をイメージキャラクターに起用

当社グループは、プロサッカー選手の吉田麻也氏を主に次世代向けサービスのイメージキャラクターとして起用することとした。吉田選手は2009年まで名古屋グランパスで活躍した後、現在はイングランドプレミアリーグのサウサンプトンFCに所属し、日本代表としても活躍する選手です。名古屋に縁がある吉田選手が国内外問わずチームを牽引する姿に、当社グループのめざす「新時代の旗手」のイメージを重ね合わせ、今回の起用に至りました。吉田選手を通じて、資産形成の魅力をお伝えしていきます。



## 吉田麻也選手 プロフィール

1988年、長崎県生まれ。12歳で名古屋グランパスのユースセレクションに合格し、名古屋に拠点を移す。2007年に名古屋グランパスのトップチームに昇格。2009年にオランダ1部リーグVVVフェンロに移籍し、2012年からは英国プレミアリーグのサウサンプトンFCに所属。北京オリンピック、ロンドンオリンピック、AFCアジアカップ、2014・2018 FIFA ワールドカップなど多くの試合で日本代表DFとして活躍。

## 事業活動

## 「マニークららぽーと名古屋みなとアクルス店」をオープン

東海東京証券は本年9月、マニークの第5号店を東海3県初の「ららぽーと」である「三井ショッピングパーク ららぽーと名古屋みなとアクルス」内に開設しました。マニークは、資産形成層のお客さま向けのブランドです。証券に加えて保険や住宅ローンもワンストップ（一箇所でまとめて相談できる）で取り扱う店舗を、昨年4月より愛知県および東京都で展開しています。「マニークららぽーと名古屋みなとアクルス店」では、金融機関に赴く時間が取りづらい資産形成層の方々にも気軽に立ち寄っていただけるよう、年中無休でお客さまに最適なサービス提供に努めてまいります。



マニークに、聞き上手なマスコットキャラクター「そうだん爵」が誕生しました。



## 店舗概要

|      |                                                                                 |
|------|---------------------------------------------------------------------------------|
| 所在地  | 愛知県名古屋市港区港明二丁目3番2号                                                              |
| 営業日  | 年中無休（全館定休日を除く）                                                                  |
| 営業時間 | 毎日 10:00～21:00                                                                  |
| 取扱業務 | 保険・住宅ローン・証券                                                                     |
| URL  | <a href="http://moneque.tokaitokyo.co.jp/">http://moneque.tokaitokyo.co.jp/</a> |

# Special Feature

特集～外国株式の情報提供体制～

## 海外提携先の現地情報を活用し、 豊富なマーケット情報や銘柄情報を提供

東海東京証券では、米国株式、欧州株式、中国株式、ASEAN株式、インドADRなど、豊富な外国株式をラインアップし、海外投資にご関心のあ  
る投資家の皆さまの多様なニーズにお応えしています。  
東海東京証券ならではのメリットは、グループの海外拠点や海外提携先  
から得られる豊富な現地情報を活用した、マーケットと個別銘柄に関す  
る情報提供。東海東京調査センター外国企業調査部のアナリストが、海  
外提携先の外国株式に関する投資判断やレーティング、目標株価など  
を織り込んだ独自の調査レポートをまとめ、ご提供しています。

### 外国株式ウォッチ数

約 **200** 銘柄

ネットフリックス、ジョンソン・エンド・ジョンソン、  
バイエル、インテル、アップル、テスラ、  
アルファベットなど



### 米国の総合証券グループ「スティーフル社」との提携

スティーフル社は米株リサーチの最大級のプロバイダーであり、米中小  
型株の調査対象銘柄はトップクラス。スティーフル社からのリサーチ情  
報をお客さまにお届けするほか、  
同社アナリストを年に一度、日本に  
お招きし、グローバル・セミナーを  
開催しています。

2018年10月セミナー風景



### 東海東京調査センター 外国企業調査部



シニアアナリスト  
中川 雅人



シニアアナリスト  
山口 信治



シニアアナリスト  
東野 大



アナリスト  
杉山 寛人



アナリスト  
堤 雄吾



アナリスト  
加藤 千明



アナリスト  
小松 祐介



アナリスト  
林 勇希



### 投資情報を動画でお届け **東海東京TV**

東海東京証券がマーケット情報などを配信する動画サ  
イト。外国株式に関する豊富な情報を配信しています。  
是非一度ご覧ください。



# Corporate Data

## 会社情報

### ●会社概要 (2018年9月30日現在)

会 社 名 東海東京フィナンシャル・ホールディングス株式会社  
英 文 社 名 Tokai Tokyo Financial Holdings, Inc.  
設立年月日 1929年6月19日  
資 本 金 360億円  
従業員人数 169名 (臨時社員20名・派遣社員3名を含んでおりません)  
連結ベース  
従業員人数 2,948名  
(投資アドバイザーおよびアセットアドバイザー69名、  
臨時社員438名、派遣社員85名を含んでおりません)

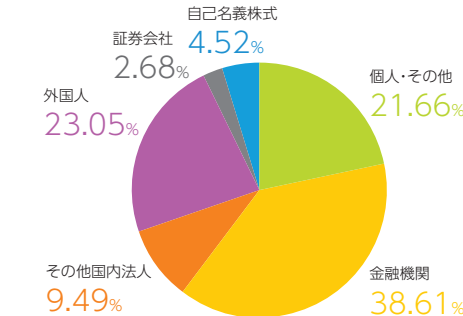
### ●株式情報 (2018年9月30日現在)

発行可能株式総数 972,730,000株  
発行済株式総数 270,582,115株  
発行済株式総数 (自己株式除く) 258,358,508株  
株主数 33,020名

| 大株主                           | 持株数(株)     | 持株比率(%) |
|-------------------------------|------------|---------|
| 株式会社三菱UFJ銀行                   | 12,016,853 | 4.65    |
| 日本マスタートラスト信託銀行<br>株式会社(信託口)   | 10,451,800 | 4.05    |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行<br>株式会社(信託口) | 10,234,800 | 3.96    |
| 三井住友海上火災保険株式会社                | 7,283,798  | 2.82    |
| トヨタファイナンシャルサービス<br>株式会社       | 7,280,000  | 2.82    |

(注) 1.持株比率は発行済株式の総数から自己株式を控除した数に基づき算出しております。  
2.上記のほか、当社が保有しております自己株式12,223,607株があります。

### ●所有者別株式の分布状況 (2018年9月30日現在)



### ●株主メモ (2018年9月30日現在)

事 業 年 度 毎年4月1日から翌年3月31日まで  
定 時 株 主 総 会 毎年6月  
基 準 日 定時株主総会の議決権 毎年3月31日  
剰余金の配当 毎年3月31日  
中間配当  
中間配当を実施する場合は、取締役会の決議により、9月30日の最  
終の株主名簿に記録された株主さままたは登録株式質権者に対し  
てお支払いします。

公 告 掲 載 方 法 電子公告  
(当社ホームページ  
http://www.tokaitokyo-fh.jp/に掲載)  
なお、やむを得ない事由により電子公告による公告が行えない場合  
には、日本経済新聞および中日新聞に掲載する方法により行います。  
決算公告に代えて、貸借対照表、損益計算書は、EDINET(金融商品取  
引法に基づく有価証券報告書等の開示書類に関する電子開示シス  
テム)のホームページからご覧いただけます。

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
三井住友信託銀行株式会社

特 別 口 座 の 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
口 座 管 理 機 関 三井住友信託銀行株式会社

株主名簿管理人 〒100-8233 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
事 務 取 扱 場 所 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区泉和二丁目8番4号  
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

### 【株式に関する住所変更等のお手続きについてのご案内】

証券会社の口座をご利用の株主さまは、三井住友信託銀行株式会社で  
はお手続きができませんので、取引証券会社へご照会下さい。  
証券会社の口座をご利用でない株主さまは、下記電話照会先までご連絡下さい。

### 【株式に関する各種お問合せ先】 三井住友信託銀行株式会社

照会先 0120-782-031  
平日 9:00~17:00